

における主なご意見1

(1) 竜巻等の突風に対する監視・予測技術の高度化の可能性及び中長期的な開発の方向性

- 情報の精度向上は必要。最先端の学問の進行状況に合わせて中長期的視点で行うべき。
 - 短期的、中・長期的に着実な精度向上を図る
- 発生した竜巻に関する情報が出せないか。
 - 目撃情報の活用可能性の検討
- 日本の家屋等に適合したスケールが必要ではないか。
 - ガイドライン等の作成
- 雲底より下や地面付近の観測が必要ではないか。研究用の高分解能レーダーの活用ができないか。
 - 研究開発の推進、研究機関との連携

竜巻等突風予測情報改善検討会（第一回） における主なご意見2

(2) 竜巻等突風予測情報の発表、伝達のあり方

- 竜巻注意情報の発表区域を細分化できないか。
 - 細分化の検討、発表シミュレーションの試行
- 住民への迅速な情報伝達手段が必要。
 - 防災行政無線、テレビ・ラジオの他、携帯メールなどの活用
- 「気象情報」、「雷注意報」による早い段階での注意喚起の有効活用
 - 段階的に発表される情報の有効活用
 - 発達した積乱雲に伴う現象（降雹、落雷、突風）全般に対する注意喚起
 - 情報体系改善の検討、情報体系の周知

竜巻等突風予測情報改善検討会（第一回） における主なご意見3

(3) 住民への利活用推進策

- 情報取得時に取るべき行動を周知すべき。気象状況や受け手の状況に応じた具体例を示すべき。
- 発達した積乱雲の見分け方など、観察の着目点を具体的に示すべき。
- 平常時から竜巻に備えた対策を講じることの有効性を周知すべき。
 - 自助・共助を支援する周知啓発活動
 - 情報の精度や限界などの特性を周知
 - ホームページコンテンツやメール配信サービス等の周知